

令和7年度 シラバス

科目名	単位数（時間数）	学科・学年	担当者氏名
香粧品化学	2 単位（60 時間）	美容科・1 学年 2 学年	松崎 一夫
学 習 目 標			授業の方法
理容・美容技術の専門家としての基礎的・一般的知識の習得を目的とする。 「化学の基本原理の理解と応用能力が、理容師・美容師にきわめて重要な意義をもつことを理解させ、香粧品化学、化学に関する知識、技能の習得を目指す。 香粧品化学は高度な応用科学であり、工学や薬学のような実学である。対象となる物質が高校までに取り扱うものではないため、難易度が高いかもしれないが、香粧品化学でさまざまな方向から香粧品の知識と理解を深め、顧客への適切なアドバイスができるようになることを目指す。			講義
成 績 の 評 価 方 法			
定期考査（60 点以上を合格とする）			
教 科 書		副 読 本	
香粧品化学（公益社団法人 日本理容美容教育センター）			

学習指導年間計画（授業計画）

【1 学年時】

章	項	内容・目的	履修時間
第 1 章 香粧品概論	・香粧品の社会的意義と品質特性 ・香粧品の規制 ・香粧品の安定性と取り扱い上の注意 ・香粧品と安全性	・香粧品の社会的意義を理解させる。 ・香粧品の品質特性やその種類と機能を理解させる。 ・香粧品の定義と規制について理解させる。	6
第 2 章 香粧品用原料	・香粧品の対象となる人体各部の性状 ・水性原料 ・油性原料 ・界面活性剤 ・高分子化合物 ・色材 ・香料 ・その他の配合成分 ・ネイル、まつ毛エクステンション用材料	・それぞれの原料の特徴・特性を理解させる。 ・さらに分類がある場合には、それぞれ分類される原料の特徴・特性を理解させる。 ・各々の分類にあたる代表的な原料について考える。 ・それぞれの原料について、関係の深い皮膚原料や物理現象があれば、その原料との関連について考察させる。	8
第 3 章 基礎香粧品	・皮膚清浄用香粧品 ・化粧水 ・クリーム・乳液 ・その他の基礎香粧品	・基礎香粧品の学習内容全般について理解させる。 ・皮膚清浄用香粧品について理解させる。 ・化粧水・クリーム・乳液・その他基礎香粧品について理解させる。	8
第 4 章 メイクアップ用香粧品	・メイクアップ用香粧品の種類と剤形 ・ベースメイクアップ香粧品 ・ポイントメイクアップ香粧品	・それぞれの香粧品について、どのような目的で使用するのかを理解させる。 ・それぞれの香粧品について、どのような場所に使用するのかを教える。 ・それぞれの香粧品について、特徴や特性、原料を教える。 ・そのためにどのような基材、色材を使うかを考察させる。	8

【2 学年時】

章	項	内容・目的	履修時間
第 5 章 頭皮・毛髪用 香粧品	・シャンプー剤 ・スタイリング剤 ・パーマ剤 ・ヘアカラー ・育毛剤	・正常な頭皮と毛髪の状態について理解させる。 ・頭皮・毛髪を清浄にする香粧品について、その使用目的や種類について理解させる。 ・スタイリングに使用させる香粧品について、その使用目的や種類について理解させる。 ・パーマ剤技術に使用させる香粧品について、その使用目的や種類、作用の様式や安全性について理解させる。 ・カラーリングに使用させる香粧品について、その使用目的や種類、作用の様式や安全性について理解させる。 ・頭皮と毛髪を健やかにする香粧品について、処方される成分とその目的について理解させる。	20
第 6 章 芳香製品と 特殊香粧品	・芳香製品 ・特殊香粧品	・芳香製品の種類と機能・使用目的の違いを理解させる。 ・特殊香粧品の種類と機能・使用目的の違いを理解させる。	6
香粧品化学を理解するための基礎化学	・物質の構成 ・物質（水）の構造 ・溶液とコロイド ・イオンと水素イオン指数 ・物質の変化と化学反応 ・酸化・還元反応 ・タンパク質	・物質の構造、化学結合、物質の量について理解させる。 ・溶解の仕組み、浸透、コロイドについて理解させる。 ・塩と塩基の定義、pH、中和反応と塩について理解させる。	4